



多様性を受け入れる心

校長 岩崎 撰也

WBC での侍ジャパンの活躍に心を熱くして応援していた方も多いのではないかと思います。北海道地区における対イタリア戦での最高瞬間視聴率は61.5%という報道がありました。個人的には、負けられない状況の中で見せた大谷選手の一球、一球声を上げての気迫のこもったピッチング、その魂が乗り移ったかのような岡本選手のホームラン、これまで不振だった村上選手のタイムリーヒットなどは本当に心が熱くなりました。コロナ禍、インフレ、凶悪犯罪など暗い話題が多い中、日本中を元気にしてくれる胸のすくような活躍、やはりスポーツの持っている力の大きさを改めて感じます。

さて、3月10日(金)に第56回卒業式を挙行しました。あいにくの雨模様の天候ではありましたが、18名の卒業生たちの卒業証書を受け取る凜とした姿には、この中春別中学校で最上級生として皆の手本となり、リーダーとして頑張ってきたことへの自信と誇りが表れていました。式辞の中では、これから新たなステージに進む卒業生に「多様性を受け入れる心」を持ってほしいということをお話しました。今回コロナ禍という世界中を不安や恐怖におとし入れる課題に直面しましたが、卒業生たちが社会に出る近い将来においても変化の激しい社会にあってさまざまな課題が起こってくるのが予想されます。そうした中、卒業生たちが社会に出て生きていくために求められることは「自分の頭で考え、仲間と協力し合って解決に向けて努力できる力」、そして自分と違う考えや感じ方を持った人に出会った時に「多様性を受け入れる、柔軟い心」を持って向き合うことだと思います。卒業生たちが持っている人への優しさや思いやりの気持ちを忘れずに、多様性を受け入れる心を大切に毎日過ごしてほしい。こんな思いを伝えました。4月から始まる新しい学校生活に失敗を恐れずチャレンジして、18名の卒業生一人ひとりが幸せな人生を歩むことを心から願っています。

また、在校生にとっても本日は1年間の課程を修了し、次の学年への希望を抱く修了式となりました。一言で一年の終わりと言っても、生徒たち一人ひとりにとって決して平坦なものではなく、自分の思い通りにいかなくて苦労することもあったと思います。生徒たちはその一つ一つを乗り越えて確かな成長を遂げてきました。年度の節目にお子様と一緒にこの一年の頑張りを振り返る機会としていただくようお願いします。

明日から春休みに入ります。生徒の皆さんも新たなスタートに備えて生活のリズムを崩さず、この期間を過ごしてほしいと思います。

